

世界とサステイナビリティを学ぶ。  
キャリアのピースが  
ここにある。

# One program for Global Goals

## OGGsパートナー大学



カセサート大学  
Kasetsart University



インド工科大学ハイデラバード校 (IITH)  
Indian Institute of Technology Hyderabad



バンドン工科大学  
Institut Teknologi Bandung



インド工科大学ボンベイ校 (IITB)  
Indian Institute of Technology Bombay



タマサート大学  
SIIT, Thammasat University



インド工科大学マドラス校 (IITM)  
Indian Institute of Technology Madras



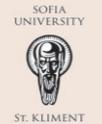
ボゴール農業大学  
Institut Pertanian Bogor



ヘルシンキ大学  
University of Helsinki



チュラロンコン大学  
Chulalongkorn University



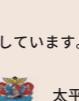
ソフィア大学「聖クリメント・オフリドスキ」  
Sofia University "St.Kliment Ohridski"



マヒドン大学  
Mahidol University



極東連邦大学  
Far Eastern Federal University



太平洋国立大学  
Pacific National University



ガジャマダ大学  
Universitas Gadjah Mada



北東連邦大学  
North-Eastern Federal University

※ロシアの大学との組織的な交流は当面休止しています。



TEL

学務部国際交流課OGGsセントラルオフィス  
011-706-8014／8142／8143／8141  
※どの番号にかけてもつながります。

E-MAIL

OGGs: oggs@oia.hokudai.ac.jp  
PARE: pare@oia.hokudai.ac.jp  
NJE3: RJE-3@oia.hokudai.ac.jp  
STS1: stsi@eng.hokudai.ac.jp

応募方法を  
チェック!

WEB

<https://oggs.oia.hokudai.ac.jp/>



国立大学法人 北海道大学 学務部国際交流課OGGsプログラム

〒060-0815 札幌市北区北15条西8丁目  
学生交流ステーション1F 学務部国際交流課内  
FAX 011-706-8037

SNS



OGGs -One program for  
Global Goals



@OggsFor



@oggsprogram



One program for Global Goals  
Global University Collaborative Interaction for Sustainable Society

Global University  
Collaborative Interaction  
for Sustainable Society



プログラム概要  
OGGs Program Outline

2023



私のピースを  
見つけることから  
一つずつ



グローバル化が加速度的に進んだ現代社会では

気候変動や多様性への理解など

一つの国や対策だけでは解決できない課題が山積しています。

Sustainable Development Goals (SDGs) が描く持続可能な社会

すなわち、地球が誰にとっても暮らしやすく在り続けるためには

価値観や文化的背景が異なる、多様な国・地域・組織の人々と

連携・協働することが必要です。

One program for Global Goals(略称OGGsオッグズ)は

持続可能な社会の実現に貢献する人材の育成を目指して創設された

大学院生を対象とする国際共修プログラムです。

SDGsに代表される地球規模の課題を取り上げるため、様々な専門領域の教員と

多様な関心を持った学生が参画する、分野横断性に特徴があります。

## CONTENTS



本プログラムは、文部科学省「大学の世界展開力強化事業」に採択された北海道大学の3事業（PARE、RJE3、STSI）が融合し、2022年度に創設された、多様な国・地域・組織の人々と連携・協働して世界の課題解決に貢献する人材を育成するプログラム（One program for Global Goals、略称OGGs）です。  
前身となるPARE（タイ・インドネシア）、RJE3（ロシア）、STSI（インド）の3事業は、それぞれの地域に特徴的な課題を解決するための人材育成を行ってきました。  
3事業が融合することで、参加学生は各地域の特徴に精通しながらも、地域間の比較や関係にまで視野が広がる教育効果が期待されます。

## OGGsとは？



OGGsプログラムは、海外パートナー大学の学生と共に持続可能な社会を実現するために何が必要か、何が重要なかを講義やフィールドを通して学び考えるプログラム。授業は全て英語。仲間と一緒に世界で活躍するための一歩を踏み出そう。



OGGsプログラムで用意された3つのコースから1つを選んで、必要な科目を履修します。「基礎プログラム」と「発展プログラム」の2段階で構成されています。基礎プログラムは短期間の国際共修でSDGsや多様性について学ぶとともに、海外パートナー大学の学生と一緒に演習を受けます。（基礎プログラムは短期留学科目を含みますが、国内の受講のみで修了することも可能です。）発展プログラムではより長期の留学を実施し、パートナー大学で専門科目を履修し、受入大学の指導教員による研究指導を受けて自分の専門分野の研究を深めます。

どの国で学ぶ？科目も重要！

### コース選択

PARE	NJE <sup>3</sup>	STSI
対象国：インドネシア・タイ 分野：人口・活動・資源・環境	対象国：フィンランド・ブルガリア 分野：文化・環境・開発	対象国：インド 分野：輸送システム・社会インフラ

国際色豊かな集中講義で多様性を実感しよう！

### 基礎プログラム

気候の良い夏に実施する北海道大学のサマースクール、Hokkaido Summer・インスティテュート(HSI)に組み込まれる2週間から1か月程度の集中講義で構成される基礎プログラムには、世界中から学生が集まります。SDGsの様々なトピックについて、アクティブラーニングを通して主体的に学修します。

パートナー大学で長期留学！専門性を高めよう。

### 発展プログラム

基礎プログラムの次は、じっくり腰を据えて長期留学。3ヶ月から1年間の留学によって、専門科目の履修、受入大学の指導教員による研究指導や論文指導等を通して、専門性を高めることができます。

**対象学生**

北海道大学の大学院生（修士課程・博士課程）／本学大学院に進学予定の学部4年生  
北海道大学が連携する海外大学の大学院生と一部の学部生

## 身に付く能力

OGGsのカリキュラムは、パートナー大学の学生と共に英語で学ぶことを基本としています。様々な言語文化背景は、異なる英語のアクセントにも表れます。英語の上手下手よりも、「何を伝えたいか」が重要だということがプログラム参加を通して実感され、本質に迫れるコミュニケーション能力が高まります。また、PBL（Problem Based Learning・問題解決型学習）などのアクティブラーニングを多く取り入れており、グループワークの中で役割分担をしながら一つの発表を創り上げていく過程では、様々な能力が養われます。

**自分の専門分野を分かりやすく語れますか？**

OGGsプログラムの特徴である分野横断性。プログラムでは、異なる専門的背景の人に対してポイントを押さえて分かりやすく説明をすることが必要になります。相手の立場に立って分かりやすく伝えることは、社会で常に求められる能力です。

**SDGsと、自分の専門分野が結びついている？**

SDGsの17の目標は、あらゆる分野に関わっています。いかなる研究領域も、視野を広げて考えるとSDGsに繋がる可能性を持っています。まずは、知ること、考えることから始めてみませんか。

**あらゆる仕事の基礎に。トランスファラブルスキルとは？**

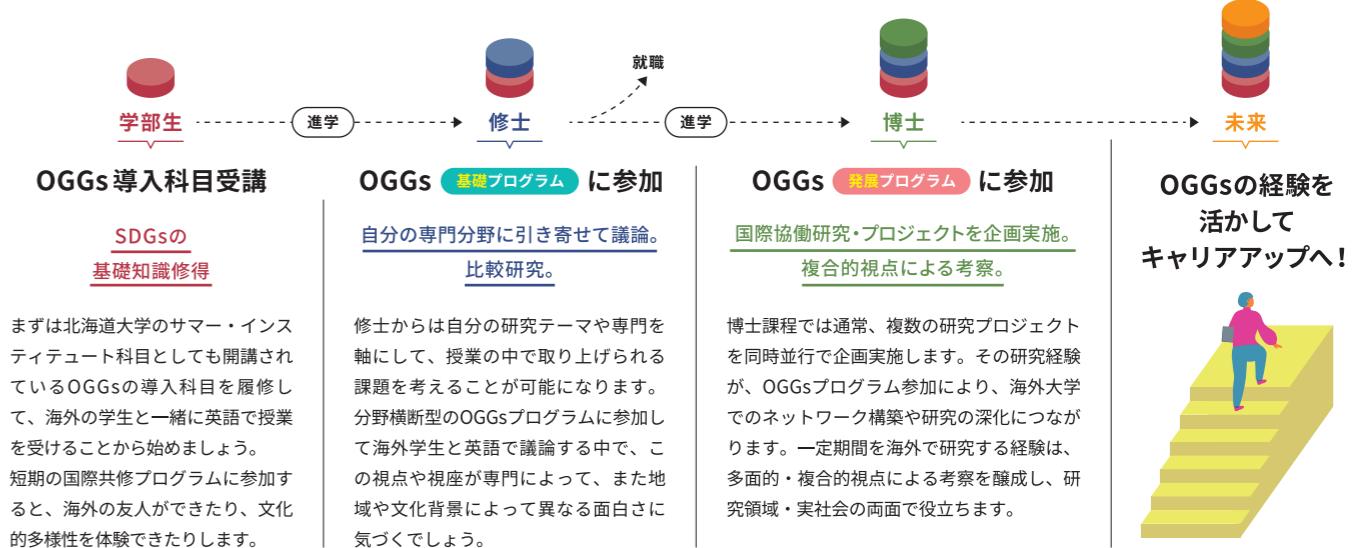
トランスファラブルスキルは、異なる背景の人々と協働する中で培われます。このスキルを身につけることで、お互いの専門や特性を活かし、創造的な成果を出すことができます。OGGsプログラムでは「課題抽出力・解決力」「異分野融合展開力」「多文化理解力」「コミュニケーション力」などが身につきます。

## 7つの能力

- 1 課題抽出・解決力
- 2 英語など、母国語以外の言語を自在に使う能力
- 3 デジタル技術を駆使する能力
- 4 知性と一般教養を研鑽する意欲と能力
- 5 コミュニケーション能力
- 6 多文化理解と異分野融合展開力
- 7 組織やチームに貢献する能力



## OGGsキャリアパス





**NJE<sup>3</sup>**  
NORTHERN ENVIRONMENT EXPERT EDUCATION  
JOINT PROGRAM

北方圏



北方圏では、植生の変化、海水域面積の減少といった地域環境の重大な変化の中で、北方先住民族が文化的多様性を維持しています。NJE3に参画する各研究分野がつながり合うことで得られる複合的・総合的な観点を持った地域専門家の育成を目指しています。

気候変動や歴史文化の多様性など、地球規模の問題が集積する北方圏を対象として、「環境評価」「文化的多様性」「土壤と生産」「地域資源開発」「防災管理」の分野横断的な重要課題を扱います。

このコースは、大学院在学中に、本学にて基礎科目のうち、基礎科目「SDGs基礎論：北方圏と日本における環境・文化・開発」を履修の上、北海道や北方圏で実施される国際経験科目に参加する学生を対象としています。また、短期派遣となる「基礎プログラム」参加の後、「発展プログラム」として数ヶ月から半年程度、北方圏パートナー大学に留学したい学生の参加も歓迎します。

課程	コース	期間	定員
基礎 プログラム	基礎科目 国際経験科目	2023年7月 ▼ 2024年3月	30名
発展 プログラム	地域科目:SDGs海外大学演習 SDGs実践科目:北方圏研究特別演習 (OGGs-NJE3)	通年	5名



タイ・インドネシア



「人口(Populations)」「活動(Activities)」「資源(Resources)」「環境(Environments)」に関する様々な問題を解決し、アジアの発展に主導的な役割を果たすことができるフロンティア人材の育成のため、北海道大学とインドネシア・タイのパートナー大学とが協働で実施しています。

近年、目覚ましい経済成長と市場の拡大が進むアジア諸国への注目は増しており、世界規模での企業の進出が活発化しています。その中でも、インドネシア・タイなどの東南アジア諸国は、天然資源が豊富なだけでなく、消費者の潜在的な消費意欲も高く、様々なビジネスの機会が考えられ、世界中の企業から大きな注目を浴びています。また、各種インフラ整備がまだ十分といえない東南アジア諸国では、日本の技術力を活用できる機会も多くあります。その一方で、東南アジア諸国では、国ごとに宗教・文化・習慣の違いがあり、国の政情やビジネス環境が一転するリスクが懸念されています。ゆえに、英語力に加え、アジアの文化や風習を理解し、グローバルな感性と専門知識を兼ね備えた有望な人材を企業は求めているのです。このコースは、大学院在学中に、本学にて基礎科目を履修の上、北海道で開催されるサマースクールおよびインドネシアやタイの大学で開催されるスプリングスクールへ参加する学生を対象としています。また、サマースクールおよびスプリングスクールへ参加の後、数ヶ月から半年程度、インドネシアやタイのパートナー大学に留学したい学生の参加も歓迎します。

課程	コース	期間	定員
基礎 プログラム	基礎科目 国際経験科目	2023年7月 ▼ 2024年3月	サマースクール <b>15名</b> スプリングスクール <b>25名</b>
発展 プログラム	地域科目:SDGs海外大学演習 SDGs実践科目:PARE特定課題研究 (OGGs-PARE)	通年	<b>5名</b>



インド



インドにおける輸送システムと社会インフラ構築及び環境に関する種々の課題について自らの専門性を活かしつつ、課題解決のために協力しあうチーム型国際協働研究力を有する人材の育成を目指しています。北海道大学とインドの最高峰に位置するインド工科大学3校が協働で実施しています。

このコースは、インドの最高峰に位置する3大学(IIT-Hyderabad、IIT-Bombay、IIT-Madras)と北海道大学が共同し、インドにおける輸送システムと社会インフラ構築に関わる種々の課題について、日印の人材がチームを作りこれに取り組む際、その成果を最大化できるような能力(本プログラムでは、これを「チームワーク型国際協働研究力」と呼ぶ)を有する人材の育成を目指します。特に、輸送システムや社会インフラ構築の正の側面だけでなく、その環境や周辺住民への影響など負の側面も包含した持続可能な開発を、日印が協力して実現できるような人材の育成を目標としています。

参加者は、STSI基礎科目(基礎論、言語・文化基礎)を受講し、インド工科大学3大学のいずれかで短期～長期の特定課題研究を行い、インド人学生との共同研究を通してチームワーク型国際協働研究力を身につけます。

課程	コース	期間	定員
基礎 プログラム	基礎科目 国際経験科目 オプション科目	2023年6月 ▼ 2024年3月	<b>10名</b>
発展 プログラム	地域科目:SDGs海外大学演習 SDGs実践科目:STSI長期特定課題研究 (OGGs-STSI)	通年	<b>5名</b>



## OGGsプログラムスケジュール

## 科目構成と単位



ここでは、OGGs基礎プログラム、発展プログラムを修了するために開講されている科目を紹介しています。

各コース修了に必要な科目を確認しながら履修計画を立てて下さい。

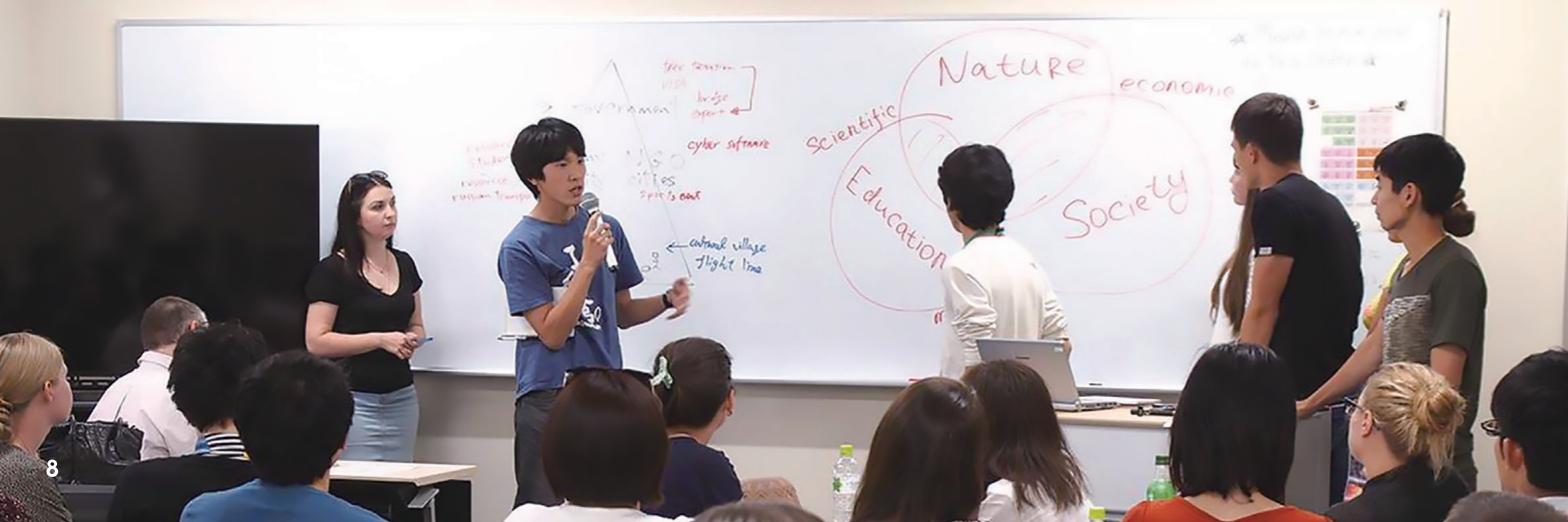
OGGs基礎プログラムの科目は大学院共通授業科目として開講されており、全ての大学院生が受講可能です。

区分	コース	開講期間	科目名	単位
<b>基礎プログラム</b>				
導入科目		2023年6月12日-6月16日 2023年6月30日-7月2日	国際SDGs入門 北大ニセコSDGsサマースクール	1単位 (推奨科目) 1単位 (推奨科目)
基礎科目	OGGs 共通	2023年7月3日-7月7日 2023年7月3日-7月7日 2023年7月10日-7月14日	SDGs演習：課題解決に向けた国際共修PBL（オブジェクトシャワー） SDGs演習：課題解決に向けた国際共修PBL（プレゼンテーション） SDGs基礎論：グローバルな課題認識と国際協働	1単位 (必修科目) ※オブジェクトシャワーか プレゼンテーションか どちらか1つ選択 1単位 (必修科目)
	PARE	2023年7月18日-7月21日	SDGs基礎論：アジア諸国と日本における人口・活動・資源・環境の連環	1単位 (必修科目)
	NJE3	2023年8月21日-8月24日	SDGs基礎論：北方圏と日本における環境・文化・開発	
	STSI	2023年6月26日-6月30日	SDGs基礎論：インドと日本における社会基盤工学	
国際経験科目	PARE	2023年7月24日-8月4日 2024年2月-3月	SDGs実習：サマースクール in Japan SDGs実習：スプリングスクール in ASEAN	
	NJE3	2023年7月24日-7月28日 2023年9月5日-9月8日 2023年度 (隔年開講) 2023年度 (隔年開講) 2024年度 (隔年開講)	SDGs実習：北方圏デザインスクール SDGs実習：北海道の過去と現在 一石狩・空知の歴史ー <sup>一</sup> SDGs実習：北方圏の歴史・言語・美術 SDGs実習：北方圏の地域デザイン SDGs実習：北方圏演習：北極域の大気と海洋と陸域の環境・社会	2単位 (選択必修科目)
	STSI	2023年8月-2024年3月	SDGs実習：インドにおける短期特定課題研究	
オプション科目	STSI	2023年6月1日-6月7日 2023年6月19日-6月23日 2023年6月8日-6月19日	日本語・文化基礎 (対面 6月1日-6月7日 / オンライン 6月19日-6月23日) インド言語・文化基礎	1単位 (推奨科目)
<b>発展プログラム</b>				
地域科目	OGGs 共通	通年	SDGs海外大学演習	2単位 (必修科目)
実践科目	PARE	通年	SDGs実践科目：PARE特定課題研究	
	NJE3	通年	SDGs実践科目：北方圏研究特別演習	2単位 (必修科目)
	STSI	通年	SDGs実践科目：STSI 長期特定課題研究	



# OGGsプログラム 科目概要 2023

OGGs Programs and  
subject structure



## 導入科目

### 国際SDGs入門

対象 学部生 推奨科目 1単位

本科目では、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標である『持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）』を取り上げます。ここに示された課題は、環境、資源、エネルギー、健康・衛生から教育、労働、産業、さらには人権や公正性の実現まで、地球社会全体が協力して解決すべきグローバルな課題が網羅されています。MDGsからSDGsへの流れ、CSV経営におけるSDGsの位置づけ、インクルーシブの本質について講義した後、主に途上国でのケースを多数取り上げながら、日本と海外のSDGsの現状の違いについて紹介しながら、自らのどのように取り組むことができるかについて演習を行います。ESG投資、エネルギー問題、環境倫理についても取り上げ、それぞれの関連と地球社会が目指す社会像について対話を行います。



### 北大ニセコSDGsサマースクール

対象 学部生 推奨科目 1単位

本科目は、日本政府によって「SDGs未来都市」の一つとして選定されたニセコ町において、フィールドワークを行います。ニセコ町によるSDGsの取り組みや、地域振興に取り組むLupiciaなどの地域に根差した民間企業、そしてニセコビュープラザ再整備計画に取り組んでいる北海道大学など、これらの取り組みについて自治体や企業のトップによる講義と、現場視察や関係者を含むニセコ町に根付いている人々との意見交換、そして、ニセコ町の持続的発展の在り方について参加者によるグループ討論・報告を通して、課題抽出・解決力、コミュニケーション能力、グループに貢献する能力を身に付けることができます。



## 基礎科目

### SDGs演習：課題解決に向けた国際共修PBL

対象 修士課程、博士課程の学生  
※早期履修制度利用可能な学部4年生 必修科目 1単位

Problem Based Learning (PBL) という、グループワークによるアクティブラーニングの教育手法を用いて、学生が主体的に学修する授業です。多様化し複雑化する国際社会が抱える様々な問題の解決を目指すSDGsのトピックをテーマにしてPBLを実施し、学生自らが具体的な課題を抽出・設定し、解決方法を検討する能力を養うことを目指します。加えて、世界各地の留学生が参加し協働してPBLに取り組むことで、国際協働力を育成することも期待されます。



#### オブジェクトシアター

本科目では、チェコ在住で世界的に活躍する人形劇師の沢則行氏を招へいし、モノ（オブジェクト）に演技させることを通して演劇的に表現するオブジェクトシアターの創作を通じ、言葉を用いない形で地球規模の課題表現を模索します。

#### プレゼンテーション

本科目では、模造紙やパワーポイントなどを用いて地球規模の課題と解決策の提案を発表します。言語表現に力点を置く発表をグループワークで創り上げて行きます。

※オブジェクトシアターかプレゼンテーションかどちらかを選択



### SDGs基礎論：グローカルな課題認識と国際協働

対象 修士課程、博士課程の学生  
※早期履修制度利用可能な学部4年生 必修科目 1単位

世界共通の課題である「情報の共有」「民族と文化多様性」「食料と環境」「水産資源と海洋環境」等をテーマとした8回の講義を通じて、持続可能な開発目標（SDGs）に関わる専門課題と分野横断課題について学びます。OGGs 3コースの教員それぞれの専門領域におけるグローバルイシューの講義受講を通して、各コースの地域的（ローカルな）特性を比較して多様性を認識し、協働してSDGsに貢献する能力を養います。



## PAREコース



### SDGs基礎論：アジア諸国と日本における人口・活動・資源・環境の連環

対象 修士課程、博士課程の学生  
※早期履修制度利用可能な学部4年生

必修科目

1単位

本授業は将来、研究者、技術者として資源環境の持続的利用に従事するために、これまでの諸資源(Resources)の利用に伴う環境(Environments)問題、人口(Populations)および生産・消費活動(Activities)の増加といった社会問題との連環、その改善、監視に資する技術とその適用効果を理解し、グループで問題解決に取り組む姿勢を身につけることを目的に、幅広い分野の知識を学ぶように開講されています。科目構成には、「講義」「グループディスカッション」「グループ発表」「レポート提出」が含まれています。



### SDGs実習：サマースクール in Japan

\*サマースクールかスプリングスクールかどちらか選択、またはどちらも参加可能。

対象 修士課程、博士課程の学生  
※早期履修制度利用可能な学部4年生

選択必修科目

2単位

「サマースクール」は、大学院共通授業科目として開講しています。本学において座学を受講するほか、道内地方でフィールド調査を行います(主に水質調査)。国・大学・分野が異なる仲間とグループを組み、協働でPARE\*に関するテーマに取組みます。科目構成には、「講義」「フィールドワーク」「グループディスカッション」「プレゼンテーション」「レポート提出」が含まれています。

\*貧困層の人口増加は都市化を促進し、化石資源、金属資源、水資源、土地資源、海洋資源を劣化させ、環境問題、食料問題を助長し、衛生状態、栄養状態を悪化させ、生存率が低下し、出生率を上げ、新たな人口増加を生む。我々はこれを、人口・活動・資源・環境(PARE: Populations-Activities-Resources-Environments)の負の連環と呼ぶ。



### SDGs実習：スプリングスクール in ASEAN

\*サマースクールかスプリングスクールかどちらか選択、またはどちらも参加可能。

対象 修士課程、博士課程の学生  
※早期履修制度利用可能な学部4年生

選択必修科目

2単位

本実習の目的・ねらいは、現地においてPARE\*の連環の改善への取り組みの現状に関する講義を受け実習することにより得た具体的な事例のグループ討論を行うことで意見を集めることです。事前に行うSDGs基礎論(PARE)を受講することで、より理解を深めることができます。これらを通して、フィールド研究力、多様性容認力、開拓力、課題解決力の4つの力が涵養され、PAREの正の運用のための国際展開を促しリードする効果が期待されます。

\*貧困層の人口増加は都市化を促進し、化石資源、金属資源、水資源、土地資源、海洋資源を劣化させ、環境問題、食料問題を助長し、衛生状態、栄養状態を悪化させ、生存率が低下し、出生率を上げ、新たな人口増加を生む。我々はこれを、人口・活動・資源・環境(PARE: Populations-Activities-Resources-Environments)の負の連環と呼ぶ。



### 地域科目：SDGs海外大学演習

対象 修士課程、博士課程の学生  
※OGGs基礎プログラムを修了したもの

必修科目

2単位

発展プログラムではOGGs-PAREコースの学生が長期留学を行い、受入大学で開講されている科目を履修して各自の専門分野に関する専門知識を身に付け、受入研究室における特定課題研究を行います。本科目は、受入大学において履修した専門科目を本プログラムの修了要件として認定するものです。



### SDGs実践科目：PARE特定課題研究

対象 修士課程、博士課程の学生  
※OGGs基礎プログラムを修了したもの

必修科目

2単位

インドネシアやタイが抱えているPARE\*に関連する具体的な研究テーマ設定を行い、パートナー大学で研究指導を受けたり、研究機関や民間企業等でのインターンシップ実施を通して、フィールド研究の実践力を高めます。

\*貧困層の人口増加は都市化を促進し、化石資源、金属資源、水資源、土地資源、海洋資源を劣化させ、環境問題、食料問題を助長し、衛生状態、栄養状態を悪化させ、生存率が低下し、出生率を上げ、新たな人口増加を生む。我々はこれを、人口・活動・資源・環境(PARE: Populations-Activities-Resources-Environments)の負の連環と呼ぶ。



## NJE3コース



### SDGs基礎論：北方圏と日本における環境・文化・開発

対象 修士課程、博士課程の学生  
※早期履修制度利用可能な学部4年生

必修科目

1単位

北海道を含む北方圏は、豊かな自然と天然資源に恵まれ、多くの先住民族が育んできた文化的多様性を特徴とします。本講義においては、北方圏の地域的課題について、パートナー大学教員との共同講義を通じて多角的な視点から概観することにより、個別専門領域を超えた分野横断的な国際水準の研究動向や相互関係についての基礎知識の取得を目指します。4日間、毎日異なるテーマ（「政治と経済」「環境と資源」「歴史と文化」「住環境と地域開発」）に沿って講義が行われます。



### SDGs実習：サマースクール in Japan

対象 修士課程、博士課程の学生  
※早期履修制度利用可能な学部4年生

選択必修科目

2単位

本実習では、北方圏という寒冷地域の課題に直結する地域開発や建設環境デザインについて、パートナー大学の教員が参画する共同授業を通じて学びます。

今年度はスウェーデンの王立工科大学(KTH)から省エネルギーや建築設備の専門家である、Ivo MARTINAC教授を招いて講義を提供頂き、スタディツアーやワークショップを実施します。



### SDGs実習：北方圏デザインスクール

対象 修士課程、博士課程の学生  
※早期履修制度利用可能な学部4年生

選択必修科目

2単位

札幌市および近郊地域は、先住民の生活の痕跡を多く残すとともに、博物館、資料館が随所に設置され、歴史的な遺物、史料の保存も行われています。札幌を中心とする道央地域における先住民の歴史、和人の移民・入植・開拓・戦後戦後の経済発展の足跡を歴史的な資料(モノと文書)を直接見ることを通して学びます。各博物館・資料館の協力のもとに、英語によるガイドブックを用意するとともに、当日の案内は基本的に英語を用いて行われます。



### SDGs実習：北海道の過去と現在－石狩・空知の歴史－

対象 修士課程、博士課程の学生  
※早期履修制度利用可能な学部4年生

選択必修科目

2単位

パートナー大学と連携して実施する共同講義を通じて、北方圏及びスラブ諸国の歴史・言語と美術について学びます。

※本科目は令和5年度(2023年度)に実施後、隔年で実施予定です。

まずフィンランドのヘルシンキ大学で分野横断的に北方圏に関する講義を受講し、その後ブルガリアのソフィア大学に移動し、スラブ諸国について学修を深めます。それぞれの大学周辺に位置する博物館や美術館等も訪問します。



### SDGs実習：北方圏の歴史・言語・美術 (隔年開講: 2023年度開講)

対象 修士課程、博士課程の学生  
※早期履修制度利用可能な学部4年生

選択必修科目

2単位

パートナー大学と連携して実施する共同講義を通じて、北方圏及びスラブ諸国の歴史とデザインについて学びます。

※本科目は令和5年度(2023年度)に実施後、隔年で実施予定です。

フィンランドのヘルシンキ大学で分野横断的に北方圏に関する講義を受講します。

その後、自分の専門や関心に応じて、受入研究室にて特定課題研究に従事します。



### SDGs実習：北方圏の地域デザイン (隔年開講: 2023年度開講)

対象 修士課程、博士課程の学生  
※早期履修制度利用可能な学部4年生

選択必修科目

2単位

パートナー大学と連携して実施する共同講義を通じて、北方圏及びスラブ諸国の歴史とデザインについて学びます。

※本科目は令和5年度(2023年度)に実施後、隔年で実施予定です。

フィンランドのヘルシンキ大学で分野横断的に北方圏に関する講義を受講します。

その後、自分の専門や関心に応じて、受入研究室にて特定課題研究に従事します。

## NJE3コース

SDGs実習：北方圏演習：北極域の大気と海洋と陸域の環境・社会  
(隔年開講：2024年度開講)対象 修士課程、博士課程の学生  
※早期履修制度利用可能な学部4年生

選択必修科目

2単位

本実習は、アラスカ大学（UAF）国際北極圏研究センター（IARC）との連携の下、アラスカに夏季もしくは冬季に渡航・滞在し、英語による講義と実地研修、フェアバンクスとその近郊におけるフィールドワーク、およびグループワークによるミニ研究プロジェクトを実施することにより、次の点を授業の目標とします。

- ◎北極圏の大気・海洋・陸面・生態系などの環境、極寒地の暮らしや社会、少数民族の社会などについて理解を深めます。
- ◎学生が共同してグループを形成し、異なる分野・文化的背景のメンバーと協調して、課題発見と解決に取り組みます。

※本科目は令和6年度（2024年度）に実施後、隔年で実施予定です。



## 地域科目：SDGs海外大学演習

対象 修士課程、博士課程の学生  
※OGGs基礎プログラムを修了したもの

必修科目

2単位

発展プログラムではOGGs-NJE3コースの学生が長期留学を行い、受入大学で開講されている科目を履修して各自の専門分野に関する専門知識を身に付け、受入研究室における特定課題研究を行います。本科目は、受入大学において履修した専門科目を本プログラムの修了要件として認定するものです。



## SDGs実践科目：北方圏研究特別演習

対象 修士課程、博士課程の学生  
※OGGs基礎プログラムを修了したもの

必修科目

2単位

本演習の目的は、北方圏地域が抱える多様な課題群をフィールドワーク、インターンシップ、論文指導という多様な教育手法を活用して、包括的かつ多角的に検討する視野を養成することにあります。基礎プログラムを修了した学生が、発展プログラムとして長期留学の中で、インターンシップの実施や受入大学の教員による論文指導・研究指導を受けます。



## STSIコース



## SDGs基礎論：インドと日本における社会基礎工学

対象 修士課程、博士課程の学生  
※早期履修制度利用可能な学部4年生

必修科目

1単位

本学とSTSIのパートナー大学であるインド工科大学（IIT）3校の教員が英語で提供する8回の講義受講を通して、インドが抱える輸送システムと社会インフラ及び環境に関する課題について理解を深め、自らの専門性を活かしつつ、日印がどのように協力して課題解決に取り組めるかを考える授業です。輸送システムや社会インフラ構築の正の側面だけでなく、その環境影響や周辺住民への影響など負の側面も包含した持続可能な開発の実現に向けた将来展望を描くことを目標とします。



## SDGs実習：インドにおける短期特定課題研究

対象 修士課程、博士課程の学生  
※早期履修制度利用可能な学部4年生

必修科目

2単位

本実習では、学生が単独でインド工科大学（IIT）の受入研究室に入り、具体的なテーマ設定を行い、課題解決を図る研究・調査活動を行います。本実習の目的・ねらいは、研究経験の少ない学生が、チームワーク型研究プロジェクトにおいてメンバーとして参画して、国際チームワーク型研究力を習得することです。研究グループの指導教員およびリーダー学生との英語によるディスカッションを通して、国際的な研究力の基礎を養います。



## 地域科目：SDGs海外大学演習

対象 修士課程、博士課程の学生  
※早期履修制度利用可能な学部4年生

必修科目

2単位

発展プログラムではOGGs-STSIコースの学生が長期留学を行い、受入大学で開講されている科目を履修して各自の専門分野に関する専門知識を身に付け、受入研究室における特定課題研究を行います。本科目は、受入大学において履修した専門科目を本プログラムの修了要件として認定するものです。



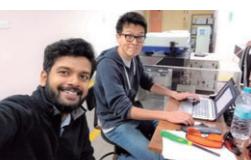
## SDGs実践科目：STSI 長期特定課題研究

対象 修士課程、博士課程の学生  
※早期履修制度利用可能な学部4年生

必修科目

2単位

具体的なテーマ設定を行い、課題解決を図る研究・調査活動を行います。本実習の目的・ねらいは、ある程度の研究経験を有する学生が、現地においてSTSI構築への取り組みの現状に関する講義を受け実習することを通して、チームワーク型研究プロジェクトにおいてリーダーとして参画し、国際チームワーク型研究力を向上させることです。



## オプション科目：日本語・文化基礎（対面/オンライン）

対象 学部生

推奨科目

1単位

本授業では、日本に滞在する外国人留学生が、円滑に環境に適応し、学習活動を活性化させることを目標に、日本語と文化の基礎を学びます。日本での日常生活や学修生活に有用な日本語の基礎を習得し、日本との交流促進に役立てます。

※本講義はOGGsカリキュラムにおいて必修ではありませんが、インド工科大学からのSTSIコース履修者向けに開講されています。



## オプション科目：インド言語・文化基礎

対象 学部生

推奨科目

1単位

本授業では、インドでの長期滞在を目標として、インドの言語と文化の基礎を学びます。インドでの日常生活や学修生活に有用なヒンディー語の基礎を習得します。さらに、インドの多様な文化を理解し、日本とインドの交流促進に役立てます。

※本講義はOGGsカリキュラムにおいて必修ではありませんが、本学のSTSIコース履修者には派遣前教育として履修を強く推奨しています。



## 参加申請方法

提出書類 

- OGGsプログラム参加申請書
- 受入研究室希望調書 (STSIコースと発展プログラム参加者のみ)
- 学生証のコピー
- 昨年度の成績証明書  
無い場合は、直近もしくは学部の成績証明書を提出してください。
- 英語能力試験の証明書のコピー  
英検、TOEIC、TOEFL、IELTS等
- パスポートの写し (海外派遣のみ)
- 家計基準適格性判断表 (該当者のみ)
- STSI追加書類 英文履歴書 (Curriculum Vitae) (様式2)

提出先 

左記の書類をOGGs  
セントラルオフィス  
のGoogleフォーム  
に提出してください。  
詳しくは説明会で  
ご案内します。

注意事項 

- 事前オリエンテーション、帰国後の報告会に必ず参加すること。
- 渡航前に学生教育研究災害障害保険（学研災）および付帯海学に加入すること。  
 ◎学研災詳細 (<http://www.jees.or.jp/gakkensai/>)  
 ◎付帯海学 (<http://jees.or.jp/gakkensai/futaikaigaku.htm>)  

- 受講希望者多数の場合は、英語能力、成績を考慮の上、受講者を決定します。



## 応募資格

- ①各科目の申請からその終了までの期間、北海道大学の大学院に在籍している者。もしくは本学大学院に進学予定の学部4年生。
- ②OGGsプログラムの課題に興味を持ち、それらの課題解決に将来貢献する意欲がある学生。
- ③学業成績が優秀であり、原則、選考時の前年度の成績評価係数 (GPA) が2.3/3.0以上であること。

参考  
JASSO奨学金  
支給資格要件

- ◎在籍大学等における選考時の前年度の成績評価係数が2.30 (3.00満点) であること。
- ◎前年度の成績がない場合は、選考時の前学期分の成績から算出するものとする。
- ◎成績評価係数で表すことができない場合は、別に定める様式に、特に成績が優秀であり、成績評価係数2.30相当以上であるとする理由を明記する。

- ④プログラム参加に十分な英語能力を有している者。

1) 英検2級程度 2) TOEIC: 550程度 3) TOEFL (ITP/PBT/iBT/CBT): 500/61/173程度 4) IELTS: 5程度  
※上記証明書がない場合、英語能力に関し指導教員の推薦書が必要です。

## 基礎プログラム 修了証取得コース

対象：大学院生、大学院進学予定の学部4年生

## 参加要件

- 1 各科目の申請から終了までの期間、北海道大学の大学院に在籍している者。  
もしくは学部4年生で早期履修が適用される本学大学院進学予定者。
- 2 OGGsプログラムの課題に興味を持ち、それらの課題解決に将来貢献する意欲がある学生。
- 3 学業成績が優秀であり、原則、選考時の前年度の成績評価係数 (GPA) が2.3/3.0以上であること。
- 4 プログラム参加に十分な英語能力を有している者。

1) 英検2級程度 2) TOEIC: 550程度 3) TOEFL (ITP/PBT/iBT/CBT): 500/61/173程度 4) IELTS: 5程度  
※上記証明書がない場合、英語能力に関し指導教員の推薦書が必要です。

## 修了要件

OGGs各コースが指定する「基礎科目(計3単位)」と  
「国際経験科目(実習)(各2単位)」を5単位以上修得すること。

## 発展プログラム 修了証取得コース

対象：基礎プログラム修了生

## 参加要件

OGGs基礎プログラム修了者

※STSIコース希望者は、STSI「SDGs実践科目：STSI長期特定課題研究」の単位修得を以て「SDGs実習：STSI短期特定課題研究」に替えることができます。

## 修了要件

「地域科目」「実践科目」4単位を修得すること

以下に記載されている支援内容と条件を理解し、資格を満たしていれば、特に必要な手続きはありません。

## 経済支援

下記の資格・条件を満たす学生にJASSO奨学金が支給されます。

### PAREコース / NJE3コース / STSIコース：月額 6～8万円

※派遣先により異なります。

#### 資格・要件

- OGGsプログラム参加期間を通して北海道大学に在籍していること。
- 学業成績優秀であり、原則、選考時の前年度の成績評価係数(GPA)が2.30/3.00以上であること。
- 経済的理由により、自費のみでの派遣プログラムへの参加が困難であること。
- 派遣先大学等所在国・地域への派遣プログラム参加に必要な査証(ビザ)を確実に取得すること。
- 派遣プログラム終了後、北海道大学に戻り学業を継続する者
- 派遣プログラム参加にあたり、他団体等から派遣プログラム参加のための奨学金を受ける場合、他団体等からの奨学金の支給月額が本制度による支給金額を超えないこと。  
※団体等から奨学金を受ける場合、当該奨学金支給団体側においては、本制度の奨学金との併給を認めない場合があるので、当該団体に確認してください。
- SDGs実習全日程に参加し、単位を取得すること。
- OGGsがプログラム修了後に開催する報告会等に参加すること。

※原則、渡航費は自己負担となります。当該年の事業予算状況により渡航費を一部支援する可能性があります。



## 査証(ビザ)取得支援

査証(ビザ)の取得に必要な留学先からの招聘状、英文推薦状および英文身元保証書等はOGGsセントラルオフィスで支援します。査証(ビザ)の取得にかかる費用(交通費など)は、自己負担です。  
なお、査証(ビザ)の取得に必要な書類は、各国の大蔵省または領事館のホームページなどを確認してください。

### Q 基礎プログラムを修了しないと、発展プログラムには応募できませんか？

A STSIコースでは、基礎プログラム修了せずに、発展プログラムに参加が可能です。但し、基礎科目的履修は必要です。

### Q 年度をまたいで受講は可能ですか。

A はい、可能です。10月からの後期にOGGs国際経験科目(海外派遣)を受講し、次年度前期のOGGs基礎科目を受講することで、OGGs修了証を取得できます。

### Q プログラムに参加中、自分の研究に関するプロジェクト等にも参加や現地集合前に他の国に寄って観光することは可能ですか？

A 基礎プログラムの海外プログラム参加中は、基本的にできません。詳しくは個別にOGGsセントラルオフィスへお問い合わせください。

### Q いくつか講義がある中で、他の授業と時間が重なってしまった場合は履修できませんか？

A 原則、すべての講義に出席することが条件ですが、事前に申し出いただくことで、追加のレポート提出等の対応が可能な場合があります。まずはOGGsセントラルオフィスにご相談下さい。

### Q OGGsの基礎プログラムの履修登録は学生が自分で教務に履修登録期間に届出をすればよいのですか？

A OGGsプログラムの審査結果通知書が届いた後、OGGsセントラルオフィスが参加学生の履修登録をまとめて行います。

### Q 学部生ですが、OGGsプログラムに応募は可能ですか？

A 早期履修制度の利用が可能な学部4年生は可能です。  
また学部2～4年生は導入科目の履修が可能です。詳しい内容は、OGGsセントラルオフィスにご相談下さい。

### Q 留学前に海外保険の加入は必須ですか？

A はい、必須です。北海道大学の海外派遣プログラムは、参加学生に海外旅行保険の始期終期は基本的に自宅を出発してから自宅に帰着するまでとなります。  
①～③までの海外保険加入手続きが必要になります。  
①学研災加入 ②付帯海学(学研災付帯海外留学保険) ③J-TAS